

祝 辞

理事長 柳谷 孝

新入生の皆さん、このたびはご入学、誠にありがとうございます。また、これまで新入生を支えてこられたご家族やご列席の皆様に対しまして、心よりお慶びを申し上げます。

明治大学は、1881年に志高き20代後半の3人の若者により創立されました。当時の日本は、封建社会であった江戸時代が終焉し、社会構造が大きく変化した激動の時代でありました。西欧諸国をモデルにした日本の近代化が急務である中、フランス法を学んだ岸本辰雄先生、宮城浩蔵先生、矢代操先生が、近代化に不可欠である法学を日本に普及させ、新しい世を作らんと学校を設立しました。それが明治法律学校であり、現在の明治大学であります。本学は、2021年に創立140周年を迎え、これまで約61万人の卒業生を輩出しましたが、開校当時の熱き想いは「権利自由」「独立自治」の建学の精神として、現在まで脈々と受け継がれています。明治大学の校歌には、そうした建学の精神や気風が溢れていますので、是非皆さんも歌い継いでください。

ところで、皆さんは「バウンダリースパナー」という言葉をご存じでしょうか。直訳いたしますと、「越境者」や「境界を越える人」となりますが、近年は組織や立場といった様々な境界を乗り越えて、新たな価値を創造する人材のことを表す言葉として注目が集まっています。例えば、皆さんも良くご存知のグローバルカンパニーであるソニーグループの十時社長は、就任以来、度々社員に対して「バウンダリースパナーたれ」と語っています。では、なぜ今、この「越境する力」が求められているのでしょうか。

現代社会に目を向けますと、ChatGPTに代表される生成AIは、あっという間に私達の生活に身近なものとなり、ビジネスの世界においても商談から生産管理そして経営戦略に至るまで、あらゆる仕事に対して自ら考え行動することのできる「AI エージェント」と呼ばれるシステムの実用化が始まっています。更には、人間と同等、あるいはそれを超える汎用的な知的能力を持つ人工知能「AGI」までもが近い将来に実現すると予測されています。こうした革新的な技術によって我々の生活は劇的に利便性を増していく一方、各地で絶えることなく繰り広げられる戦争や紛争そして国際秩序の混乱は、世界の分断を一層加速させるとともに、資源価格や為替市場など経済にも大きな影響を与え、国際社会には不透明感と緊張感が増しています。このように未来予測が困難で複雑化した社会の課題を解決するためには、既存の価値観や枠組みにとらわれずに多様な視点を持って他者と協働すること、つまり様々な境界を乗り越えることが不可欠なのです。

もちろん、今この場で「自分はバウンダリースパナーになることができる」と自信をもって答えられる方は多くはないでしょう。しかしながら、明治大学には、全国そして全世界から、年齢も国籍も異なる多様な学生が集まっています。ほんの少し勇気を出して、是非多くの人達と交流を深め切磋琢磨をしてください。また、留学、ボランティア活動、インターンシップなど、普段とは異なる環境に積極的に身をおくことも重要です。時には自分と異なる考え方や価値観に戸惑いを覚えることもあるかもしれませんが、しかし、様々な価値観や文化的背景を持つ人達との時間は、必ずやバウンダリースパナーとして必要な力を育んでくれることでしょう。これこそ、本学が理念として掲げる「『個』を強くする」ことに他なりません。皆さんの前途は、大きく開かれています。本学において、世界の人々と協働してゆく上で必要な国際通用性と高度な専門性に磨きをかけるとともに、それぞれにふさわしい「個」を磨き、予測困難な未来をバウンダリースパナーとして切り拓いていかれることを、大いに期待しております。

結びになりますが、ここに皆さんのご入学を心よりお祝い申し上げますとともに、明治大学における学生生活が実り多いものとなりますことを祈念いたし、祝辞といたします。